



労働と対価

令和7年2月11日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

資本は労働が生み出すものである。しかし金融はそれを搾取しその利益の確保を得る。これらが経済システムの現実である。

また今日機械生産や自動化は、その生産性を拡大し、資本力の拡大を企業へ与えるものである。

これらは巨大な資本力が世界を所有していることを理解できるものである。

これにおいて企業と経済への考察を求めるとき、労働価値の変化が存在する。企業においてその生産性と共に利益を構築するとき、その対価という報酬が与えられる。

これらは労働需要が存在し、報酬基準が存在する。また企業への利益の供与は、経営者や役員へのそれらに同位する報酬を与えるものである。

これらすべての労働における企業への利益の供与とそれに伴う労働価値への報酬の供与が存在するのである。

これら資本力は生活の豊かさを与える現実である。

また今日のインフレスパイラルは、それら資本力における現実への判断を新たにするものである。これらは経済や企業、個人に対して新しい基準と判断が付与されるものである。

資本は労働における生産性が生み出す現実なのである。現状の企業システムの進歩はその生産性を大きく拡大させるものであり、新しい豊かさの源泉なのである。

労働が有する生産性が、その対価報酬を有するのである。それらが経済の実態である。他方においては金融が生み出す資本が存在するが、それらは生産性を持たず、それら労働における資本の創出からそれら資本の搾取を行うことにおいてそれら金融システムが成り立つのである。